

昭和56年度

和歌山県名匠表彰受賞者

敬称略（五十音順）

和歌山県名匠

いし い よし お
石 井 義 夫 （竿銘 げてさく）

職 歴

昭和6年、実兄故児島光雄（竿銘 師光）氏に師事。竹製へら鯨釣り竿（通称 へら竿）作りの技術を習得。

昭和10年、独立し、銘を「げてさく」と称する。

業績の概要

へら竿は真竹、高野竹及び矢野竹、それぞれの竹の特質を生かし、作られるが、その大切な部分である穂先から2番目の竹（学名・スズ竹。高野竹と呼ぶ。）が高野山頂近辺で良質のものが採取できることから、橋本市及び高野口町で、産業として発展した。

氏は、昭和10年創業以来、製作技術の向上、研鑽に努める一方、後進技能者の指導にも積極的に尽力され、現在まで弟子10人、孫弟子19人を育成された。

また、昭和35年には、紀州製竿組合を結成、初代組合長として5年間（2期半）にわたり、組合の基礎作りから、材料の共同購入等、業界の近代化に努めるとともに、試し釣り用のつり池を開設（昭和39年）するなど、製作技術向上のためにも多大の功績を残された。

その後、昭和46年～48年には再度組合長に推され、化学製品のグラス竿やカーボン竿の出現によって不況に陥った竹竿業界の振興に尽力され、昭和50年からは同組合顧問となり現在に至っている。

昭和39年、県政功勞表彰（産業振興）受賞。

昭和39年、迎賓館への作品出品に伴う感謝状（県知事）を受ける。

昭和56年、県技能賞受賞。



職 種 製竿師